《様式２－１》

（令和元年９月１１日　政策企画課）

「第3回アドバイザー会議」における補足説明（再質疑）

調書番号：　１　事業名：ユニバーサルデザイン普及促進事業費

○補足説明

説明者職・氏名	説　明　内　容
政策主幹　渡辺和彦	第2回アドバイザー会議の中で小澤アドバイザーより指摘いただいだ、事務事業自主点検シートのＶ見直しの必要性の中で、「障害のある人の意見を採り入れており」の部分を、「障害のある人など多様な方の意見を採り入れており」として変更した。障害者だけでなく高齢者などの多様な方の意見を取り入れているとの内容にした。

○再質疑

アドバイザー	質　問　内　容	回答者職・氏名	回　答　内　容

《様式２－２》

（令和元年9月11日　政策企画課）

「第3回アドバイザー会議」における評価区分及び評価内容

調書番号：　１　事業名：ユニバーサルデザイン普及促進事業費

アドバイザー	評　価　区　分	評　価　内　容
小口アドバイザー	「要改善」	県のユニバーサルデザインの基本指針が策定されて10年が経過し、現状は各部局での対応であるが、実態は事業の縮小となっている。昨年は国からユニバーサルデザイン2020行動計画が示され、県も総合計画を策定中とのことだが、この中でユニバーサルデザイン、ユニバーサル社会の実現を今後どのように県として取り組んでいくか。その辺りの位置付けをもう一度明確にしてほしい、との意味で要改善とする。具体的に3つ。1つは事業を進める上で、事業全体をデザインしてコントロールする仕組み体制を作ってほしい。ユニバーサル社会の概念が広がってきているが、どのような社会を県として目指すのか。そのために具体的に何をするのか。誰がやるのか。こうしたことを決めて実行状況をきちんとチェックする仕組みを作っていただきたい。2点目の重点的なテーマとして心のバリアフリー。それから山梨県ということで観光のバリアフリーを重点的に考えていただきたい。心のバリアフリーの問題はまず学校教育の中でどのようにやっていくのか、観光はインバウンドも含めて観光客に対するバリアフリー、できれば先進地の観光地になるよう、目指していただきたい。表彰制度が実施されているが、この表彰制度を充実させることで県民の理解を深めてほしい。一つ方向性のとして表彰を分野別に行うとか、具体的には教育や従来の施設や、新たに観光やものづくりなど、分野を広げることで関係する人や業界など裾野が広がっていく。表彰の公募から表彰式まで報道を使ってアピールしてほしい。受賞した企業の事例発表会やセミナーを開催するとなお、アピールになるので検討してほしい。
小澤アドバイザー	「要改善」	ユニバーサルデザインの言葉の周知や考え方を理解しきれていない方もまだいるのではないか。ユニバーサルフォーラムやセミナーの開催、啓発用パンフレットを活用して、出張講座を積極的に開催するなどして更に認知度を高めていく必要がある。表彰制度は自主的な取り組みにつなげていくということで、一般市民にも納得できる事業にしていく必要がある。県政モニターアンケートを見ても、年齢別に10代、20代と認知度は高いが、高年齢層にいくに連れて知らないといった、認知度

「第3回アドバイザー会議」における評価区分及び評価内容

調書番号:　1　事業名:ユニバーサルデザイン普及促進事業費

アドバイザー	評　価　区　分	評　価　内　容
村上アドバイザー	「要改善」	が低い傾向が見られる。全体ではまだ60パーセントという認知度であり、更に分野に絞った取り組みに重点を置く必要があるのではないか。 ユニバーサルデザインであれ、バリアフリーであれ、課題はまだまだ続くという意味で要改善とする。ハード面での整備はある程度可能だが、人口減少が進むとソフト面での手当が希薄になるのではないかと心配だ。高齢者や障害を持った人への偏見ではなく、共生という意味で、学校、企業、行政や団体、各分野で協力して心のバリアフリーの理解や取り組みが必要。県としてもユニバーサルデザインの認知度だけでなく、心のバリアフリーのセミナーや表彰を増やして考え方の周知や理解に取り組んでいただき、一般県民まで行き届くように工夫してほしい。